11月21日㊏～平成28年 2月14日㊐

笑いの大切さと平和の尊さ伝える 山田洋次×井上ひさし展

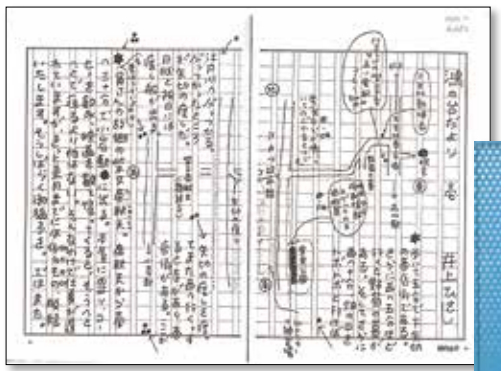
市では、防災や文化、観光などの各分野で相互交流を行っている東京都葛飾区と文化振興分野で連携を進めるため、同区柴又を舞台にした映画「男はつらいよ」を生み出した映画監督 山田洋次と市川ゆかりの作家 井上ひさしの企画展を開催します。

二人が大切にしてきた笑いの原点と意味、そして戦争を描いた作品に焦点を当て、山田洋次の最新映画「母と暮せば」の小道具、衣装、美術資料、イメージ画などの製作関係資料や、井上ひさしの創作メモ、書き込みのある書籍、直筆原稿などを展示します。創作過程の資料からあふれる二人の思いをご覧ください。

問☎320・3334文学ミュージアム

二人の縁

二人の人生は不思議な縁に導かれるように時どき交わりを見せます。井上ひさしは「男はつらいよ」シリーズを待ち焦がれて見るほどの大ファンで、山田洋次が監督した映画「キネマの天地」の作品づくりにも参加しました。本展では、二人の縁ストーリーを紹介します。



▼井上ひさし「鴻の台だより」（「面白半分」1975年7月号掲載）
井上の市川在住時代は1969年から1995年に至る「男はつらいよ」シリーズの公開中にほぼ重なる。井上は自宅から、江戸川を渡って程近い柴又をよく訪れていた。

▶映画「キネマの天地」（松竹、1986年）
プログラム（写真提供：松竹株式会社）

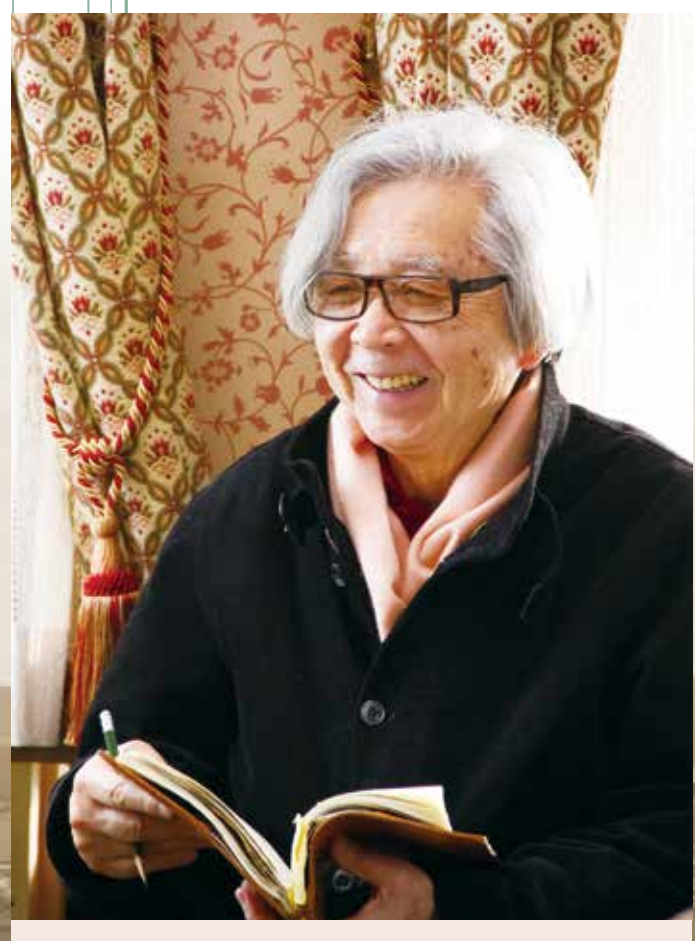
▲井上ひさし愛用の
万年筆と原稿（個人蔵）

笑・笑・笑

落語や江戸時代の小説である黄表紙、浅草の軽演劇など、二人の作品に大きな影響を与えた「笑い」を掘り下げます。また、二人の作品の名台詞を紹介します。

◀山田洋次「放蕩かっぽれ節ー山田洋次落語集」（筑摩書房、2002年）
山田洋次は、幼少期から落語の笑いに魅せられ、「男はつらいよ」シリーズをはじめ、数多くの作品に古典落語の噺を取り入れている。また山田自身も新作落語を作っている。

▶井上ひさし「手鎖心中」限定版
（成瀬書房、1985年）
（写真提供：遅筆堂文庫）
井上ひさしにとって黄表紙は"人生のわかれ道"であった。直木賞受賞作「手鎖心中」は、山東京伝の黄表紙「江戸生艶気樺焼」が元になっている。



山田 洋次（写真提供：松竹株式会社）

1931年大阪府生まれ。代表作に「男はつらいよ」シリーズ、「幸福の黄色いハンカチ」（77）、「たそがれ清兵衛」（02）、「東京家族」（13）、「小さいおうち」（14）、他多数。最新作は「母と暮せば」（15年12月公開）、「家族はつらいよ」（16年3月公開）。

市川市・葛飾区文化交流事業

山田洋次×井上ひさし展

日11月21日(土)～平成28年2月14日(日)午前10時～午後7時30分(土・日曜日、祝日は午後6時まで、入室は開館時間の30分前まで)

休館日 月曜日(11月23日、平成28年1月11日は開館)、11月24日(火)、27日(金)、12月28日(月)～平成28年1月4日(月)、1月12日(火)、29日(金)

場文学ミュージアム

¥一般500円(400円)、65歳以上400円、高校生・大学生250円(200円)、中学生以下無料※( )内は団体料金。

観覧料相互割引のお知らせ

本展開催期間中、「文学ミュージアム」と、葛飾区の「葛飾柴又寅さん記念館・山田洋次ミュージアム」各館の利用済み観覧券(半券)を受付で提示すると、文学ミュージアムでは一般・高校生・大学生の観覧料が、寅さん記念館・山田洋次ミュージアムでは一般の観覧料が2割引になります。

【関連イベント】

①上映会「キネマの天地」(1986年／監督:山田洋次／配給:松竹株式会社)

井上ひさしも作品づくりに参加、当日は山田洋次氏が登壇予定。

日平成28年1月17日(日)午後1時30分～4時

場メディアパーク市川グリーンスタジオ

人抽選で220人

②古今亭菊之丞落語会 ―企画展にちなんで―

演目「妾馬(めかうま)」、「居残り佐平次」

日平成28年1月24日(日)午後2時～3時30分

場メディアパーク市川グリーンスタジオ

人抽選で220人

③学芸員による展示解説(申込不要)

日12月5日(土)、平成28年1月10日(日)、2月6日(土)いずれも午後2時

場メディアパーク市川企画展示室

申往復はがきまたはFAXに必要事項(6面上段参照)と、参加人数(1枚2人まで)を書き、①12月18日(金)②25日(金)必着で郵送またはFAX320-3356で文学ミュージアム(〒272-0015鬼高1-1-4メディアパーク市川2階)

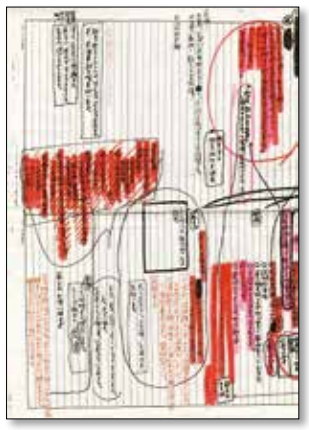
※締切後、定員に余裕がある場合は、電話で申し込みを受け付けます。

※イベントの参加には、観覧券が必要です(観覧済み可)。

問☎320-3334文学ミュージアム

井上ひさし 戦争を描いた多様な作品の創作過程

井上ひさしは、「父と暮せば」、「きらめく星座」など戦争をモチーフにした作品を数多く執筆しました。作品を書く上で参考にした書き込みのある書籍や原稿、創作メモなどを多数展示し、作品に込めた思いをひもときます。また、作品の随所にある山田洋次との縁も紹介します。



▲井上ひさし 戯曲「紙屋町さくらホテル」創作メモ(写真提供:仙台文学館)

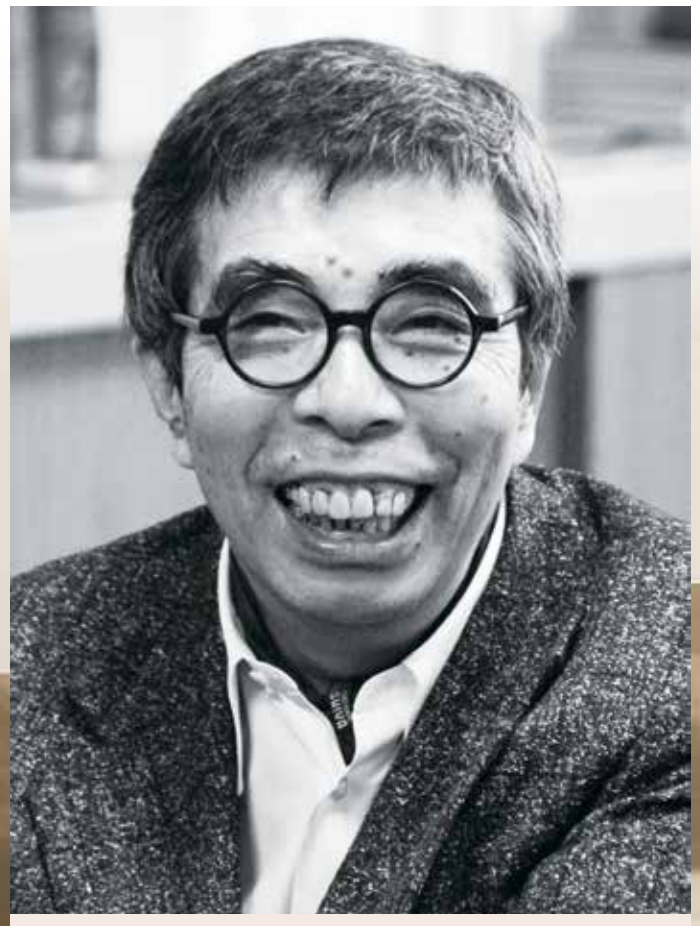
▲井上ひさし 戯曲「円生と志ん生」年表(写真提供:仙台文学館)

山田洋次 最新映画「母と暮せば」の多彩な製作関係資料

12月12日(土)から公開の被爆地長崎を描いた映画「母と暮せば」の製作に関わる資料を展示します。セット模型、小道具、衣装、美術資料、イメージ画など映画づくりを支える資料が盛りだくさんです。

▲撮影用絵コンテ(写真提供:松竹株式会社)

▲「母と暮せば」イメージ(画 藪野 健)(写真提供:松竹株式会社)



井上 ひさし (写真提供:佐々木隆二)

1934年山形県生まれ。作家、劇作家。代表作に「ひょっこりひょうたん島」(64～69、共作)、「手鎖心中」(72)、「吉里吉里人」(81)、「化粧」(82)、「父と暮せば」(94)他多数。1967年から1987年まで市川市に在住。2010年75歳で死去。

◀「母と暮せば」(松竹、2015年)台本(写真提供:松竹株式会社)

▲葛飾区柴又から、井上ひさしゆかりの国府台を望む